

第12期 事業報告

(2022年5月1日から2023年4月30日まで)

2011年5月に株式会社清月記の菅原裕典社長を發起人に、「3.11 東日本大震災で両親を失った孤児の支援プロジェクト」として設立・スタートした「JET0 みやぎ」は、正会員、賛助会員、全国から多数のご寄付、そして理事会役員の方々に支えられ12期目も無事事業を完遂することができました。対象となる震災孤児も当初の88名から、第6期には親権者の震災関連死が認定された3名が追加され、合計91名となり、今期まで69名が卒業いたしました。また、本来JET0 みやぎの「生活・教育支援金」は19歳までの給付となりますが、第5期より、支援の幅を広げ、20歳以上でも学生に限り、希望者には支援延長を行っております。

また、昨今のコロナ禍の状況を鑑み、2020年度より「新型コロナウイルス学業支援」として10万円の追加支給も始めました。

2022年3月給付の「生活・教育支援金」について、第12期は19才以下の14名と支援延長を希望する学生8名の、計22名の子供たちに「生活・教育支援金」20万円と、「新型コロナウイルス学業支援金」10万円の、合計30万円を支給させていただきました。

昨今の、新型コロナウイルス感染症も5類に移行しましたが、まだまだ予断を許さない状況です。JET0 みやぎでは保護者を含めた形でサポートをしていきたいと考えております。

また、支援対象の子どもたちは年々減少傾向となり、2030年に最後の一人が支援終了の予定となります。皆様からのたくさんのご支援のおかげで、支援終了の予定となる2030年まで、今後ご寄付を頂かなくても給付金の支給が可能なほどの、多くのご寄付が集まりました。そのため、今期は、積極的なご寄付の呼びかけは行わないよう活動してまいりましたが、多くのご寄付を頂いている状況から考えると震災から12年が経過しても、今なおJET0 みやぎへの支援、関心は高まりを見せているのだと思います。これもひとえにご支援いただいている方々のお声かけがあったることと存じます。

JET0 みやぎは、たくさんの皆様からお支え頂き、これまで無事に運営することができました。これからもJET0 みやぎは皆さまが安心して支援いただける団体、そして、安心して子供たちと保護者から頼っていただける団体として活動してまいります。